

(様式2)

校 種	小 ・ 中	学校番号	6 0	学校名	宇都宮市立上河内東小学校
-----	-------	------	-----	-----	--------------

平成31（2019）年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

（1）国・県・市の学力調査などから

- ・基礎的な内容の定着が不足している傾向は変わらないが、学力向上プランに基づく授業改善や朝の学習の実践により、国語の言語事項や算数の計算の技能については県平均との差が小さくなってきている。
- ・理科については、4・5年生ともに県平均を上回ることができた。4年生の国語と算数も県平均と同程度の観点が多かった。
- ・全国学力調査の結果では、国語はA・B問題とも全国平均と同等の観点が多かった。A問題の読む能力（▼11%）が全国平均を下回っていた。
- ・とちぎっ子学力調査の結果では、5年生は、国語・算数において全観点で県平均を下回っており、差が10%以上の観点が多かった。
- ・毎年、学年によって学力定着度の傾向に差が見られる。国語では、「読む能力」を向上させていく必要がある。また、算数でも、基本的な内容が定着していないため基本を活用して考える問題や文章で説明する問題では無解答が多い。

（2）国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・学習への取り組みについては、どの学年も平均を上回る肯定的回答が多い。自分自身に関する質問への肯定割合が高く、自己肯定感の高い児童が多い。
- ・家庭学習については、どの学年も「家庭で予習・復習をしている」「テストで間違えた問題をやり直している」児童の割合が平均を下回り、家庭学習の習慣化に課題が見られる。

（3）授業等への取組状況から

- ・与えられた学習課題に対して、真面目に取り組む児童が多い。グループ学習や体験的な活動にも意欲的に取り組むことができる。
- ・自分で見通しをもって考えたり、筋道立てて根気よく考えたりすることが苦手だが、授業改善等により、主体的に課題に取り組んで解決していこうとする態度や、話し合う・考えを書くといった言語活動に意欲的に取り組もうとする態度が育ってきた。
- ・漢字や計算など繰り返しの練習が必要な学習を面倒がる傾向が見られる。

2 今年度の重点目標

基本を身に付け、生き生きと学び合う児童の育成

～図画工作の授業研究をととして～

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★，「平成31年度指導の重点」に関する取組は文頭に□，授業における取組のうち重点は文頭に○）

（1）基礎・基本の確実な定着

- ・パワーアップ問題やステップアップシートの計画的活用。（通年）
- ★□・基本的な学習技能の習熟と家庭学習の習慣化（通年）
- ・朝の学習を活用した漢字・計算の基礎学力の定着と「学び直し」活動の実施（通年）

（2）学習指導の工夫・改善

- ★□・各種学力調査，質問紙調査の結果を生かした指導の共通理解と共通実践（通年）
- ★□○ねらいの理解とねらいに沿った振り返り活動の工夫（通年）
- ★□・生き生きと学び合い，協働的に課題解決をする学習活動の工夫（通年）
- 一人一授業の実践と授業研究会の実施（通年）

（3）読書活動の推進

- ・朝の活動を利用した10分間読書（火・木）や校内読書週間（11月）の実施
- ・図書ボランティアや教職員による読み聞かせの実施（通年）

（4）家庭・地域との連携・協力

- ・「東っ子の学習」を活用した家庭学習の習慣化に向けた家庭との連携（通年）
- ・魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協力（通年）

（5）宮・未来キャリア教育の推進

- ・地域学校園の年間指導計画の実践を通して，児童の勤労観・職業観の育成を図る。